

世界遺産アカデミー認定講師 File No.3

このコーナーでは、マイスターの称号を得て全国で積極的に啓蒙活動をされている世界遺産アカデミー認定講師の方に毎回スポットを当て、お話を伺います。第3回は西日本地域を中心にご活動されている藤田穂高(ふじた・ほたか)さんです。

——現地を訪れなければ見えて こなかった世界遺産の本質

大学時代、世界遺産について学んでいましたが、当時は今ほど世界遺産に注目が集まっておらず、本屋に行っても世界遺産関連の本がない!……と資料を集めるのも、ひと苦労。世界遺産の知識を活かす場も殆どありませんでした。認定講師になったきっかけは、世界遺産検定のシルバー(当時)を取得した頃に募集があり、これは世界遺産に関わって活動できる数少ない機会だと思い、迷わず申し込んだのが始まりです。

以前から世界遺産のみならず歴史の研究者として活動を行なっていますが、昨年、祭祀学研究会を立ち上げ、より一層の充実を図っています。現在は無形文化遺産についての調査や記録にも取り組んでいます。実際に現地の保存会の方々のお話を聞くと、縮小傾向化や本やインターネットでは見えてこない保全方法の苦労など考えさせられます。

備前市では関谷学校の世界遺産登録に向けた活動が盛んで、以前、世界遺産について理解を深めてもらおうと世界遺産講座が実施されました。その講座を担当させてもらった時のことです。皆さん、地元の地域文化にとっても愛着を持っておられ、「世界遺産登録を目指すことで、地元が地域文化にもっと目を向けられるようになれば」という講座担当者の方の言葉が心に残りました。私も世界遺産講座を開くことで、世界遺産登録だけでなく地域文化の掘り起こしに繋がるのだと気づくことができました。また、白川郷に取材で訪れた時には、白川村の方々から、世界遺産登録される前から続く、合掌造り集落を残す為の努力や取り組みをお伺いしました。地元の方々の陰の

努力があるからこそ、私たちは美しい世界遺産を見られるのだということを本当に実感しました。取材後に合掌造り集落を眺めると、それまでとは違った景色に見えたことを今でも覚えています。これらは講師を引き受けなければ得られなかった貴重な体験でした。

——「好きこそ物の上手なれ」が 知識を深める鍵

ガイドンスのためには、具体的な話題、例えば自分の体験やニュースなどをできるだけ盛り込むように心がけています。特に「世界遺産の基礎知識」は抽象的な概念も多いので、詳細にイメージできるような例を考えてスライドに話を肉付けしています。この肉付け加減で時間配分や本番での進み具合を調整することができます。

認定講師の数は今後ますます増えることでしょう。その中で「これだけは!」と思えるような自分の得意分野を磨くこと、自信を持てるテーマを持つことが大切です。話題をひとつでも持っているという心のゆとりは、ガイドンスを着実に終えることにも繋がると思っています。話し方などは練習や経験を積むしかありませんが、それは誰でも上達が可能なので、どんどん挑戦してほしいです。やはり「好きこそ物の上手なれ」で、認定講師を目指す方は、その好きなことを広げて深めていくだけです。

——高まる無形遺産の価値

今後は、世界遺産の登録が抑制傾向にある中で、無形遺産に対する関心も高まっていくのではないかと感じています。現に、「長良川の鵜飼」のように積極



的な取り組みを始めている自治体もありますし、エジプトの無形遺産「エル・シラー・エル・ヘラレイヤ叙事詩」は何百年も口伝で継承されてきた素晴らしいものです。無形遺産ではありませんが、世界遺産登録された神社を訪れる場合は祭礼にもご注目いただきたいです。上賀茂神社・下鴨神社と葵祭、熊野那智大社と那智の火祭、厳島神社と管絃祭、春日大社と春日若宮おん祭、などなど。祭礼を見てみると、その建物の位置や形、構造がとてもよく分かり、神社の深い理解に繋がります。

世界遺産は様々な可能性を秘めています。観光資源のみならず、教育、地域振興、国際交流から平和活動にまで拡がります。「認定講師として世界遺産を話す」ことを通じて、そのような活動に少しでも貢献できればと考えています。